



スウェディちゃんの
なぜ？
なに？ どうして？
教えて
ムース先生！

Vol.5
特別見学編
スウェーデンの木が
日本に来るまで

スウェディちゃんは、
スウェーデンハウスに暮らす女の子。
好奇心旺盛なスウェディちゃんの周りには
なぜ？なに？どうして？が、たくさん。
今回はムース先生と「ふしぎな旅」に
出掛けましたようです。

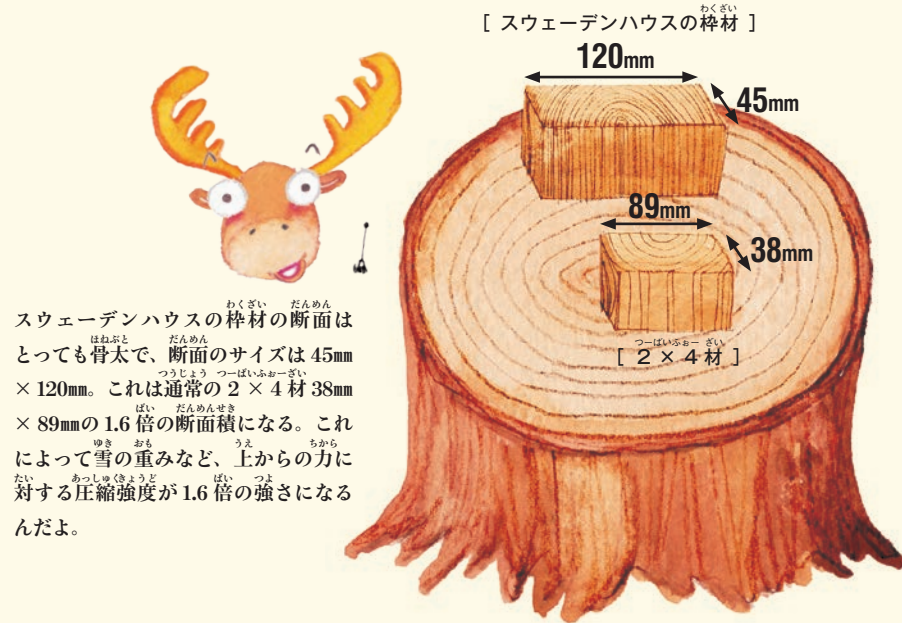
うわあ！

ムース先生と一緒に
お空を飛んでいる！

森と湖がたくさん
ベニガラ色のお家が可愛いなあ。
わかった!!ここはスウェーデンね。

スウェーデンの森って
すごく大きい。





スウェーデンハウスの枠材の断面は
とても骨太で、断面のサイズは45mm
×120mm。これは通常の2×4材38mm
×89mmの1.6倍の断面積になる。これ
によって雪の重みなど、上からの力に
対する圧縮強度が1.6倍の強さになる
んだよ。

クラフトマンシップ

スウェーデン人のクラフトマンシップは、小さな頃から木に触れ、木を活かす文化の中で培われているものなんだ。木質壁パネルや木製サッシ3層ガラス窓をつくるには、高性能な機械と、木に愛情を持っているクラフトマンの、優れた知識や技術が活かされている。そこに、日本のきめ細やかな製造手法を融合させることで、高い品質が叶えられているんだよ。だから、日本の気候風土や文化に調和する快適な家なんだ。



スウェディちゃん、
スウェーデンの旅は
楽しかったかな？

えっ！？
夢じゃなかったの…
かな？

ここはスウェーデンハウスの
現地工場だよ。
木質壁パネルや
木製サッシ3層ガラス窓などを
つくっているんだ。



キレイな工場で
丁寧につくられて
いるのね。

ムース先生のおはなし

高品質な木材の生産地であるスウェーデンの、優れたクラフトマンシップを持つ現地スタッフ。高度な加工技術やきめ細かな管理をする日本人スタッフ。両国のモノづくりが融合して、スウェーデンの住性能や住文化を伝える日本の“家”スウェーデンハウスがあるのです。

おとうさん、おかあさんへ

「スウェーデンの森林」に関する情報は、バックナンバー134・137・165号でもご紹介しています。またスウェーデンハウスのテクノロジーカATALOGもご用意しています。



硬くて粘り強い木

スウェーデンハウスで使用する木材は、オウシュウアカマツとオウシュウトウヒという針葉樹。木は寒さの厳しい環境では、長い時間をかけてゆっくりと生長するから、木目が詰まり、硬さや粘り強さを供えるんだ。



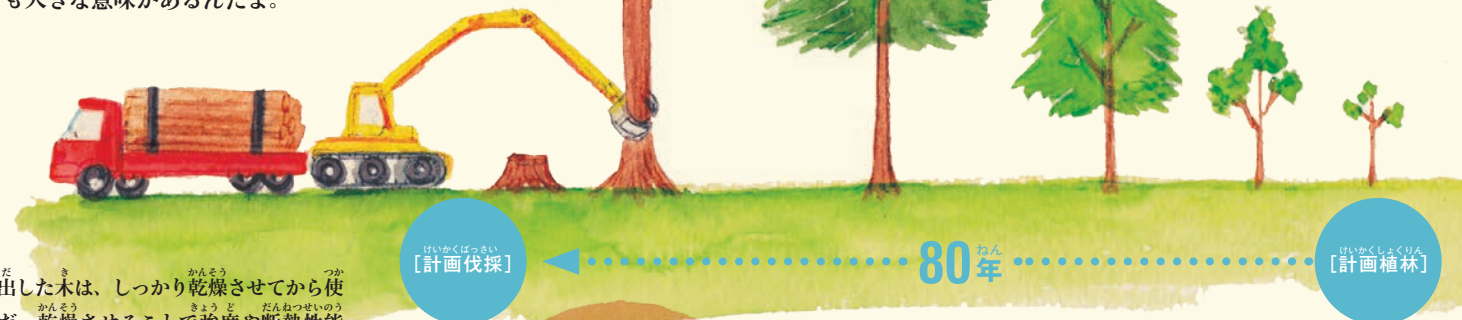
あのヘラジカは
ムース先生の
お友達なの？

自然はみんなのもの

スウェーデンには「自然享受権」という権利がある。自然をみんなで共有して楽しむという考え方で、例えば持ち主がいる森の中に立ち入って、木の実やキノコを採ったり、テントを張って泊まったりして、自由に自然を楽しむことができるんだ。みんなで共有するというのは、同時にみんなが責任をもって守ることにつながる。日頃から自然に親しみ、その大切さを知っているから、豊かな環境が守られているんだよ。

理想的な循環

スウェーデンは、100年以上も前の1903年から、伐る木の量より生長する木の量が多くなるように「計画植林」を行っているんだ。CO₂（二酸化炭素）は地球温暖化の原因の一つと考えられているよね。木はCO₂を吸収して生長するのだけれど、樹齢80年くらいになると、そんなにCO₂を吸収しなくなる。成長した木を伐って利用して、活発にCO₂を吸収する若い木を植えて育てる。木で家をつくることは、常に若い森を保つことにつながっているんだ。地球全体の環境を考えるうえでも大きな意味があるんだよ。



計画伐採

80年

計画植林

80年！
わたしの家で使われている木は、
そんなに前に
植えられたものなんだね。

80年かけて
ゆっくり育つ木は、
とても丈夫なんだよ。